

(6) 2016年(平成28年) 2月4日(木曜日)

「これが最後になるでしょうか」と昨年、孫娘について書かないと言いましたが、今年ももう一度書くことになりました。一昨年12月、4歳になっただんだんと話の内容が複雑になってきました。いろいろと今まで言わなかったことを言い始めて感心したり驚いたりしています。

昨年の5月ごろ娘夫婦と孫のナタリー、わたしたち5人で食事をしていました。すると急にナタリーが「この家はあなたたちの家か？」と聞くのです。わたしたち夫婦は教会所有の家、牧師館に住んでいますので、「違うよ。教会のものだよ」と答えました。続いて聞いたのは「裏庭もそうか？」でした。もちろん

裏庭だけがわたしたちのではないので「そうだよ」と答えました。なんでそんなこと聞くのかといぶかしく思っていると、ナタリーは少し考えて「よ」と言いました。自分の部

南加キリスト教会教会連合

「カムツーマイホーム」

溝口 俊治

「カムツーマイホーム」と言いました。どうしてそんなことを言ったのか理由はわかりませんが、家で、まだ先の話ですがわたしたちの引退の話は娘夫

「カムツーマイホーム」と言いました。どうしてそんなことを言ったのか理由はわかりませんが、家で、まだ先の話ですがわたしたちの引退の話は娘夫

のか分かりませんが、とにかく彼女の言葉に愛を感じました。嫌いな人に対してそんな言葉を人は言わないでしょう。自分の家に迎え入れるというのは愛の思いを表しています。わたしたちもナタリーにとつては家に迎え入れたい人間と思つた時、うれしくなりました。

そんなことを考えていると、わたしたちの人生に「家」は大切と思えました。生まれて幼いころは親の家に住み、家を出て自分の部屋に住み、そして働くようになる。そして引退したとき、家があることは大変安心感を与えてくれるでしょう。その後の人生を終えるとき自分の部屋

で家族に守られながら人生を全う出来たら幸せです。それでその後はどうなるのでしょうか？ わたしが聖書を通して示されたのは、そんなわたしに対して主イエスが「カムツーマイホーム」と言っていてくださる言葉でした。その言葉は神の愛を表しています。ご自分のところに迎えたいと言っておられるのです。それも一時的なことではなく、永遠にです。なんとその愛は深く広く、長いものではないでしょうか。それを知ってこの地上で自分の家がなくなっても、神がお迎えくださる家を心待ちにしながら生かされていきます。

(ロサンゼルス・ホーリネス教会)